

北朝鮮人道支援の会 ニュースレター NO.57

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1 1 4 5 TEL:048-778-9961 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL: <http://www.yoshida-yasuhiko.com/>

郵便振替番号:00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

2009年 9月1日

「ピョンヤンの子どもたちと交流してきました」——訪朝を終えて

筒井 由紀子 (KOREA こどもキャンペーン 事務局長)

8月下旬、北朝鮮を訪問した。「南北 코리아 と日本のともだち展」として、ピョンヤンの小学校や観光地などを朝鮮学校の子どもたちと一緒に訪れ、現地の子どもたちと交流するのが目的である。残念ながら日本の報道では、実際に泣き、笑う子どもたちの姿が伝わってこない。今の日朝関係ではお互いの顔がまったく見えないまま不信と憎悪を募らせている。そんな状況を打開するために、子どもたちの絵と笑顔をとおして、「お互いを思う心」を育てていければと願う。

今年の「南北 코리아 と日本のともだち展」

今回は、韓国の絵本作家柳在守(リュ・ジェス)さんの下絵に東京・ピョンヤン・ソウルの3都市で子どもたちが絵を書き加え、「共同制作:平和の木」を作り上げるという大きな目的があった。日朝関係が最悪の状況である今、日本人の私たちがピョンヤンの小学校で共同作業したり交流するのは決して容易なことではない。

しかし、ルンラ小学校の安校長先生が「状況は厳しいが毎年このような交流が出来るのは嬉しい」と話してくれたように、10年近く築いてきた現地の小学校との信頼関係と、一緒に同行してくれた朝鮮学校の先生や関係者の協力があったて実現できた。「皆で作ったこの作品は、10月に東京で展示されるんですよ」と朝鮮学校の先生が話すのを子どもたちは熱心に聞いていた。東京で展示される自分たちの作品を思い描いているのだろうか、「どんな子どもたちが見にくるのかなあ・・・」と思いを巡らすことから相手を感じる一歩が始まる。お菓子を一緒に食べたり、おしゃべりしたりと交流しながら楽しく作業をした。

今回は、「ちからたろう」などで有名な絵本作家の田島征三さんも同行してくれた。田島さんは、子どもたちの前で新しい絵本「かとりせんこう」を読み聞かせた。「かとりせんこう」で蚊が落ちて、洗濯物やおじいさんのめがね、新聞の文字、はたまた看板や空を飛ぶ魔女やゆうれいまでも落ちてくる。最後はお月さまが落ちてくる?というお話に子どもたちも興味津々。

そんな楽しい絵本を紹介した後、「上手な絵を描こうと思わないで。でも一生懸命描くと、筆の先から力が出て来ていい絵が描けるんだよ・・・」という田島さんの話に子どもたちは目をパチクリ。次に絵を描く時に、この言葉をどのように思い出すのだろうか。この共同制作、そしてこどもたちの描いた絵は、10月に東京・青山の「こどもの城」で開催される「南北 코리아 と日本のともだち展」で展示される。

「150日戦闘」のさなかで

現地では、今、9月16日までという「150日戦闘」が最終段階を迎えている。「戦闘」というと少々物騒な響きだが、2012年の金日成主席生誕100周年に「強盛大国の大門を広く」という目的のために、経済・農業をはじめ様々な分野で少し高い目標(130%程度)を掲げて、それを達成し成果を挙げていくという全国キャンペーンのことである。

ピョンヤンだけでなく地方でも、そして農場で、工場で、学校で、オフィスでもこのスローガンが掲げられている。さらに8月17日から27日まで行われた米韓合同軍事演習「ウルチ・フリーダム・ガーディアン」に対抗して、この期間、朝鮮人民軍が特別警戒態勢を布いていた。一方で私たちの訪問直前に逝去された金大中元大統領の葬儀に弔問団を派遣したというニュースを新聞やテレビでも大きく報じていた。韓国との「全面対決も辞さず」といっていた3月のことを思うと大きな変化が感じられる。

落ち着いた市民の表情・・・

例年同じ時期に訪朝しているが、今年は国際情勢が緊張しているものの、大きな災害もなく、また、9月9日の建国記念日の祝賀行事の大々的な準備をすることもなく、街全体は落ち着いた。マスゲーム『アリラン』が今年も開催されていたが、やはり外国人の観覧客は例年に比べて少なく、地味な感じを否めない。一方で、金正日総書記が先軍政治の指導を始めた記念日(8月25日)には、ピョンヤン市内のあらゆるモニュメントが美しくライトアップされていた。

商店やレストランの看板もネオン管となり、スローガンを描いた絵さえも夜に光る看板に代わっていて、数年前のライトアップと比べると、格段と最新化されたものになっている。西海岸の元山市でも水力発電所の完成で電力事情が回復し、同様にライトアップが行われているとテレビで報じていたようだ。10年前、食糧支援で現地を訪れた時の真っ暗な街並みのことを思い出し、少しほっとした。

<<ウラ面につづく>>

【下の写真はルンラ小学校での交流風景】



本紙ならびに『ポリシーフォーラム』 会員・読者の皆様へ

前号(7月1日号)刊行以来、会費を納入して下さった会員氏名(敬称略)と金額です。「未納分納付をもって退会する」と通知して来られた方はその旨、付記してあります。ご協力ありがとうございます。以下、受領日付順。(ご要望があれば別途、領収書を発行します。)

金 在武(6000円)、金 甲生(9000円)、河合秀二郎(6000円)、呉 秋元(9000円)、李 文雄(9000円)、美山秀幸(6000円)、鄭 早苗(12000円)、金 奉玉(18000円)、手束光子(9000円)、藤川哲史(9000円)、日森文尋(6000円)、床井 茂(3000円)、金 原賛(3000円)、大久保敏明〔退会〕(9000円)、吉田由紀(6000円)、岩橋重昭(9000円)、李 漢洙〔退会〕(6000円)、和田 実(3000円)、温井立央(5000円)、煙石澄子〔退会〕(10000円)、岩見 崇(3000円)、広谷正男〔退会〕(3000円)、平野博文(9000円)、渡辺 昂(6000円)、小早川了介(6000円)、曹 国順(12000円)、尹 恵子(3000円)、平野昌司〔退会〕(9000円)、朴 明子〔退会〕(9000円)、安藤正和〔退会〕(9000円)、喜多英之(9000円)、杉山 淳(3000円)、高橋秀典(3000円)、武藤幸子〔退会〕(9000円)、内澤潤子〔退会〕(9000円)、朴 智子(9000円)、李 政晩(10000円)、李 博之(9000円)、木村三浩(6000円)、熊本県高教組(3000円)、杉本文男(5000円)、山下裕之〔退会〕(3000円)、堀内伸子〔退会〕(9000円)、桑原千代(12000円)、徐 吉鎮(6000円)、小林正夫(9000円)、米岡史之〔退会〕(9000円)、小山克博〔退会〕(9000円)、中川謙 (6000円)、梅田章二(6000円)、金 讃福(12000円)、佐藤礼次〔退会〕(10500円)、佐藤昌子(3000円)、松田章一(3000円)、片岡 健(9000円)、鄭 徳南(9000円)、桜井善作〔退会〕(6000円)、中外旅行社(5000円)、在日本朝鮮神奈川県商工会(6000円)、高 用哲(12000円)、今泉英明(3000円)、金 蓮淑(9000円)、本島 勲(10000円)、川野秀之(6000円)、坂下康子(3000円)、筒井由紀子(6000円)、黒木正博〔退会〕(9000円)、殿平善彦(3000円)、藤井 晴雄(3000円)、金 政義(6000円)、村上慎吾〔退会〕(3000円)、大槻準一郎(6000円)、安 和世(3000円)、

高野秀男(6000円)、藤井達雄(6000円)、岬 暁夫(3000円)、阿部年晴(6000円)、永倉苑子(12000円)、小仲久雄(6000円)、金 秀男(6000円)、上野英一(3000円)、尹 鐘漢(6000円)、朴 天守(3000円)、福沢真由美(6000円)、田路良一郎(9000円)、多田則明(9000円)、姜 達来(12000円)、有元幹明(6000円)、小城智子(12000円)、前田康博(5000円)、菅谷琢磨(6000円)、城部芳旭(6000円)、柳 正一(9000円)、三浦一夫(5000円)、山本俊正(6000円)、金 泰明〔退会〕(3000円)、荒井宏行(6000円)、儀我壮一郎〔退会〕(3000円)、崔 正勲(10000円)、

<<表面から続く>>

追加の経済制裁が始まって・・・

6月16日から、日本政府による追加の経済制裁が行われている。8月19日北京へ向けて出国する時のこと、追加経済制裁の「厳格化」であろうか、一緒に行く東京の朝鮮学校の子どもたちがカウンターで止められた。北京行きチケットだけを手にしているので、日本人の私は何事もなく通り過ぎたが、あとに続く朝鮮学校の子ども達は通ることが出来なかった。

朝鮮籍の彼らの再入国許可書には、最終目的地が「朝鮮民主主義人民共和国」とはっきり記されているからだ。「でも、子どもだよ・・・どうする・・・」隣り合う若い係員2人がお互いのカウンターの前にいる子どもたちの再入国許可書を手に囁きあっている。

結局、一番端の通路に連れて行かれた。年配の係員が出てきて、「日本政府は北朝鮮に対して経済制裁措置を行っている。わかっているんですか。あなた方の渡航は禁止できないけど・・・」と“注意”を受けた。覚悟はしているものの、「子どもたちはどう思っただろうか」と胸が痛んだ。そんな中、そばにいた若い職員が「呼び止めてごめんね」と言いながら、子どもたちに再入国許可証を返してくれた。

帰国時、税関の荷物チェックを通る時、行きのこともあったので皆少し緊張していた。「どこへ行ってきたんですか？」若い係員に訪ねられた。「平壤です」と答え、「子どもたちと一緒に向こうの子たちと絵の交流をしてきました」と話すと、その人は「そうですか。僕、新潟にいたんですよ。今、大変でしょう？」と答え、子どもたちにやさしく、配慮しながら、写真の確認だけで通してくれた。制裁措置の厳格な実施と、実際に対面しながら対応する若い人たちの感情に温度差があるのには、正直ほっとした。ますます難しくなる日朝関係。クリントン元大統領の訪朝や南北対話の再開で情勢は少しずつ動き出している。鳩山新政権もぜひ対話の一步を踏み出してもらいたいと思う。【おわり】